

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく、学びプラン)」の進捗状況概要版
(令和3年度に進捗のあった主な事業)

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
京都ならではの フィールドにおける 新たな単位互換 科目の開設 【(1)-①(P1)】	京都ミュージアムPBL科目	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講し、全科目合計で78名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講する。 ・「京都世界遺産PBL科目」は5大学・6科目を開講する。 ・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。 	
	京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」は4大学・5科目を開講した。全科目合計で93名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。		
大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援 【(1)-④(P1)】	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講やすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開設。	令和2年度から新規開設の予定だった本講座について、令和2年度はコロナの影響により開講中止となつたが、令和3年度は教職課程の日曜講座として、4科目が提供・開講された。	教職課程の日曜講座として、2科目を開講する。	
大学と連携した学生の安心・安全の確保 【(2)-③(P3)】	大学間連携による職域接種	「大学のまち京都・学生のまち京都」のすべての大学が早期に対面授業を再開して学びを推し進めることができるよう、新型コロナワクチンの職域接種の機会を提供。	京都市、大学コンソーシアム京都、京都府との連携で、京都大学等の協力の下で、新型コロナワクチン職域接種の仕組みを構築した。 府内13大学、約3,100人の学生・教職員等の2回目の接種が令和3年9月に終了。	引き続き、状況を注視しながら、学生の安心・安全な学生生活の確保に努めるとともに、充実した学生生活を送れるよう、必要な取組を進めていく。	

柱2 大学・学生の国際化の促進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P8)】	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアーや誘致活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏向け京都進学説明会をオンライン開催(留学生計719名)した。 ・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送り、オンライン文化体験＋先輩留学生座談会を3種実施(留学生計23名)した。 ・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーやオンライン交流会として開催(首都圏:9校、京都側:13校)した。 ・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2021」を開催(応募作品数:14)した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京を対象とした開催を中心に定着を図りつつ、他の地域(福岡を想定)にも働きかけを行う。 ・京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生のツアーやについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。教職員同士の交流機会創出にも引き続き取り組む。 ・留学生ショートムービーコンテストは周期事業に切り替え、別企画を検討実施する。 	
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P10)】	ウクライナ・キエフ、京都市民ぐるみでの受入支援	京都市の姉妹都市であるキエフ市をはじめウクライナから避難された方々を、温かく受け入れ、支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市、京都市国際交流協会、京都キエフ交流の会が事務局となり、留学生スタディネットワーク、大学コンソーシアム京都など、幅広い団体等が力を合わせ、「ウクライナ・キエフ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」を発足し、「寄付された方のワシントップ窓口の設置」、「住居や物資、サービス等の提供の受付、集約、マッチング」などを実施。 ・大学コンソーシアム京都、京都市、京都府の連名で、ウクライナ情勢に関する共同メッセージを発出。 	引き続き、国の受入れ支援策等を見極めつつ、キエフ市をはじめウクライナから避難された方々の、個々の状況に応じて、寄り添った支援を行っていく。	
留学生の受入れに係る大学の負担軽減への支援 【(2)-①(P11)】	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、R4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	新型コロナウイルス感染症の影響により各大学等がガイダンスを実施しなかったため、対象となる大学等に対し、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る情報を含む各種資料をデータで提供した。	春入学・秋入学の時期に合わせて電子データも活用しながらウェルカム・パッケージを実施	★
日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実 【(4)-①(P18)】	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	国際化に係る新たな取組を進めるR2年度に認定した7大学(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)を支援。	引き続き、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援。	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援 【(1)-①(P20)】	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	令和3年10月10日に平安神宮前・岡崎プロムナードから無観客でのステージ企画をライブ配信した。岡崎グラウンドにて来場型企画も行い、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催した。 【実績値(本祭当日)】 YouTube視聴回数:12,926回、公式HPアクセス数:30,738回、参加型企画来場者数:265人	ここ2年、新歓活動が制限され新規実行委員数がコロナ禍の年度から大幅に減少していることから、まずは実行委員数の確保に向けてサポートする。 本祭は節目となる第20回を迎、対面での開催を第一に準備を進める。コロナ禍前の本祭を経験した実行委員がいない中、密にコミュニケーションをとりながら活動を支援する。	
学生Place+(ぷらす)の更なる活用促進 【(1)-②(P21)】	学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施している。 (学生Place+来場者数(12月末現在):10,162名) ・コロナ禍で活動が制限される中、京都のまちで主体的に活動している学生団体を後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を実施した。13団体が応募し、5団体が受賞した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。		
ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設 【(1)-④(P21)】	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー及び大学・学生と地域の連携強化等を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	・京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典をはじめとした学生さんの挑戦を応援する寄付メニュー」において、寄付を募るとともに、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信に努めた。 ・大学との連携協定に基づき、大学・学生と地域の連携強化を図るため、各大学と協働する新たな応援メニューを開設し、各大学において、卒業生等を対象に、広く寄付を呼び掛けさせていただいた。	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。 【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】 R3:3大学→R4:24大学・短期大学	★
学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充 【(4)-①(P26)】	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	・ダウンロード数:19,901DL(2月末時点) ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件)	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。 また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。	

柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
地域企業と連携した 担い手育成 【(1)-①(P29)】	地域企業と連携した 次代の京都の 担い手育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	留学生を含む学生のチームが、京都企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などにオンラインも活用しながら取り組んだ。 (プロジェクト数:10、参加者:11大学・64名(うち留学生13名)(2月末時点)	「留学生就職サポート事業」と「京都企業と連携した次代の京都を担う人財(担い手)の育成事業」を統合し、従来のPBLに加え、留学生を含む学生が就職活動前の早い段階から、京都企業を出会い・知るきっかけづくりの場を新たに設ける。	★
地域企業の魅力発信の強化 【(1)-②(P29)】	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企業(掲載企業数:3,930社) ※令和3年12月末時点	令和4年度は、ウイズコロナにおける地域企業の採用活動のオンライン化への対応を一層支援するため、新たに新卒採用やインターンシップ情報などを発信できるようにするなどの取組を行う。	
地域企業の魅力発信の強化 【(1)-②(P30)】	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	・「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施した。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況に応じてオンラインと併用して実施した。 ・出願、面接、レポート等の提出はWebにて行った。 ・低年次生向けの広報を実施した。	・引き続き、講義は令和3年度同様にオンラインを取り入れて進める。あわせて、出願、面接、レポート等の提出についてもWebにて行う。 ・「長期プロジェクトコース」では現在のニーズを踏まえたプロジェクト形成およびチーム形成に重点を置いたプログラムへ発展させるための検討を行う。	
地域企業と学生の出会いの場づくり 【(1)-③(P31)】	The Future of KYOTO AWARD	学生の市内定着、市内企業就職に向け、企業と学生を繋ぐ取組として、「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、民間企業と連携して学生主体の地域課題解決の取組を実施する。 本取組は、学生自らが地域課題を発掘し、解決策の検討・提案、実践までを行う。賛同企業には、提案採択の際の審査・表彰、また、実践の際には、助言等の御協力をいただき、学生の成長を一緒に応援いただく。	学生が地域や企業を知り、京都と関わりを持つことで、学生の市内への定着、京都の未来の担い手育成へつなげることを目的として、学生が主体となり、地域の課題解決に取り組む「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、一緒に学生の成長を応援していただける企業を募集。	SDGsの理念のもと、地域課題の解決や若者等の学びと成長、地域社会の活性化などを進めることを目的に連携協定を締結している、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫及び日本たばこ産業の4社が本市とともに当初の賛同企業として参画しており、引き続き、賛同企業を募りながら、学生による地域の課題解決の取組を進めることで、学生を応援していく。	★

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実 【(1)-①(P33)】	リカレント教育の推進支援、実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで、リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学リカレント教育リレー講座」として6大学6講座を主にオンラインで実施し、合計148名の受講があった。 ・各大学のリカレント教育への支援策を、上記リレー講座の実施から広報ポータルサイト運営へと発展させることについて検討した。 ・大学コンソーシアム京都が実施するリカレントプログラムについて検討を重ね、令和4年度からの2プログラム開講を決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学のリカレント教育情報を網羅できるポータルサイト(あるいはそれに準ずるもの)を導入し、運営を開始する。 ・大学コンソーシアム京都主催のリカレントプログラム「データサイエンス講座」「現代の教養講座」を開講する。 ・令和5年度にさらに1プログラム開講するための検討を行う。 	★
大学と地域の連携強化 【(4)-①(38)】	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度からの採択校を引き続き支援した。 スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部、花園大学) 発展型:2件(京都橘大学、龍谷大学) ・採択校の取組を広く発信し、加盟校の地域連携活動の活性化につなげるため、大学・地域シンポジウムを開催した。(令和3年11月) 	各大学において、今後の取組として、地域連携に関する正課科目的設置や教養教育における全学対象の体系的な教育プログラムの構築などを予定しており、引き続き、各大学における地域連携の取組を後押しすることで、地域連携に取り組む大学の裾野の拡大を図っていく。	
学生の力をいかした住民自治の活性化 【(4)-③(P39)】	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し、事業を推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・7名が入居し、自治会役員として自治会活動に参加 ・自治会行事については、コロナ禍につき縮小 ・関係者協議については、書面回議を実施 ・ゲストを招いた外部向けのオンラインイベントを3回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き7名が自治会活動に参加 ・関係者協議については、情勢を見極めながら、対面、オンラインを中心に行う。 	

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和3年度進捗状況	令和4年度以降の取組	資料3 記載項目
学生による京都で学ぶ魅力の発信 【(1)-②(P43)】	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS (Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画等を検討した。 	引き続き、学生目線による大学生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(P44)】	留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けて発信。	<ul style="list-style-type: none"> ・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名) ・学生アルバイトの感染予防のため在宅勤務も活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・バディ・翻訳等の取組を実施 ・引き続き状況に応じて在宅勤務を活用 	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(P44)】	「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命 ・任命者数 12名 ・国内外において京都の魅力を発信 	引き続き、京都PR学生大使から国内外に向けて京都の魅力を発信する。	
大学・学生向け広報の充実 【(3)-③(P45)】	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用(再掲)	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード数:19,901DL(2月末時点) ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種に関する情報等を学生へ発信した。 ・ニュース配信にて、オンラインイベントを積極的に配信した。 ・効果的な利用に向けてレイアウトの改善を図った。 ・安定的な運営に向けて、企業からの協賛を得た。(1件) 	<p>より多くの学生にアプリを利用もらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。</p> <p>また、引き続きアプリを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた注意喚起やワクチン接種の情報等を学生へ発信していく。</p>	